

映画で学ぶ アサーティブコミュニケーション / 第6回

『42 世界を変えた男』 授業ガイド

不公平でも自分を保つ —— 「自分が何者かは、自分で決める。」

教員用・指導資料（対象：12歳以上／小学校高学年～中学生）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	不公平な状況でも自分を保つ（怒りを認めつつ、報復でも我慢でもない第3の道を選ぶ）
教材映画	『42 世界を変えた男』（原題 42／2013年・アメリカ／監督・脚本：ブライアン・ヘルゲランド）
対象	12歳以上（小学校高学年～中学生）。映倫Gだが差別描写が重いため配慮必須（下記参照）
時間	標準90分（45分×2も可）。上映128分。全編視聴・厳選クリップ・あらすじ紹介から選択
中心概念	報復・我慢・「自分を保つ」の区別／怒りは感じ、反応は選ぶ／自分の価値を手放さない
ねらい	理不尽に対して、感情を否定せずに反応を選び、自分の尊厳を守る姿勢を理解する
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 人種差別描写の扱い（重要）

本作は実話にもとづき、くり返し人種差別的な言葉・侮辱（相手監督が浴びせる罵倒の場面など）が描かれます。日本の映倫はGですが、内容は重く、無配慮な鑑賞は避けてください。

- 差別的表現を板書・音読しない。字幕の語をあえて取り上げない。
- 鑑賞の前後で歴史的文脈（人種隔離の時代・公民権運動）を必ず補う。
- 「自分を保つ＝報復しない」を、「不正を我慢せよ」と誤解させない。声を上げることの大切さも扱う（ジャッキーの沈黙は戦略的選択）。
- クラスに当事者性のある生徒がいる可能性に配慮し、体験の発表は強制しない。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版等でレイティングが異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 「自分を保つ」の基礎（予備知識）

報復・我慢・自己を保つの三分法

理不尽に対する反応は、しばしば「報復（攻撃）」か「我慢（受け身）」に二極化します。アサーティブの核心は、感情（怒り）は正当なものとして認めつつ、行動としての反応は自分で選ぶという第3の道です。これは受け身の我慢ではなく、自分の尊厳を守る能動的な選択です。

💡 誤解を防ぐ

「報復しない＝黙認・我慢の推奨」ではありません。ジャッキーの抑制は、当時の状況下での戦略的で尊厳ある選択であり、同時に周囲（リッキーら）は制度を変える働きかけをしています。「声を上げること」との両立を扱ってください。

刺激と反応の「あいだ」

「何かをされた（刺激）→どう反応するか」のあいだには、自分で選べる余地がある——この考え方（心理学でよく語られる）が本作の核です。怒りを感じることと、その場でやり返すことは、切り離して考えられます。

不公平でも自分を保つ4つの心がけ（板書用）

① 怒りを否定しない

「怒って当然」とまず認める。

② 反応は自分で選ぶ

やり返す/別の道。選ぶ力は自分に。

③ 自分の価値を手放さない

相手の言葉で自分を決めさせない。

④ 一人で抱えない

信頼できる人に話し、支えを得る。

🎯 この授業の到達目標

報復・我慢・自己を保つの違いを説明でき、「感情を認めつつ反応を選ぶ」具体的な方法を1つ以上挙げられる。

4 90分授業の流れ（時間割）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「理不尽なことをされたとき、どう反応する？」報復・我慢の二択を引き出す。
10-22分	背景と配慮	1947年の人種隔離という文脈を補い、差別描写の扱い方を事前に説明する。
22-33分	三分法	報復・我慢・自分を保つを板書。「感情を認め、反応を選ぶ」を強調。
33-58分	映画を観る （クリップ推奨）	ジャッキーが報復せずプレーで応える場面、支えとなる人物の場面。差別罵倒の場面は必要最小限に。
58-75分	ワーク記入	「弱さか強さか」を軸に、自分の反応の傾向を振り返る。
75-85分	共有・整理	「報復しない＝我慢ではない」「声を上げることも大切」を確認。
85-90分	まとめ	板書「自分が何者かは、自分で決める。」まとめ言葉で締める。

まとめ

不公平にあったとき、いちばん守るべきは自分自身の尊厳です。怒りは感じていい。でも反応は選べる。相手の言葉で「自分が何者か」を決めさせない——それが、長い目で見ていちばん強い返しになることがあります。

5 映画の背景知識

原題／邦題	42 / 42 ～世界を変えた男～
製作年・国	2013年・アメリカ。上映128分。日本公開：2013年11月1日。映倫：G（米国はPG-13）
監督・脚本	ブライアン・ヘルゲランド
実話の背景	1947年、ブルックリン・ドジャース。ジャッキー・ロビンソンがメジャーリーグ初の黒人選手として「色の壁」を破る。背番号42は全球団の永久欠番

主なキャストと役柄

- チャドウィック・ボーズマン（ジャッキー・ロビンソン役）：のちに『ブラックパンサー』で知られる。静かな怒りと誇りを体現。
- ハリソン・フォード（ブランチ・リッキー役）：ジャッキーを起用する球団幹部。

🗣️ 「42」の意義

毎年4月15日は「ジャッキー・ロビンソン・デー」で、全選手が背番号42を着用。一人の尊厳ある選択が、制度と文化を動かした象徴として扱えます。※映画は演出上の脚色を含むため「実話に基づく物語」として扱うのが適切。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia、MOVIE WALKER等）で確認しています。細部・脚色は諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. ジャッキーが「その場でやり返さなかった」のは、弱さ？ 強さ？

→ 二項でなく、「反応を自分で選んだ」点に注目させる。相手の土俵に乗らない強さ。

Q. 「報復しない」と「不正を我慢する」は同じ？ 違う？

→ 違う。ジャッキーは誇りを保ち、周囲は制度を変えようと動いた。声を上げることの大切さも扱う。

Q. 怒りを感じることに、やり返すことは、切り離せる？

→ 刺激と反応の「あいだ」に選択の余地がある、という視点へ導く。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- ・ 「弱さ／強さ」を、**報復・我慢との違い**を踏まえて論じられているか。
- ・ 自分の反応の傾向を、他者を傷つけない形で振り返れているか（強制しない）。
- ・ 「自分を保つ」を「我慢」と混同していないか（声を上げる選択肢にも触れているか）。

7 シリーズ全体像

回	映画	学べる力	目安
1	コーダ あいのうた	自分の気持ちを伝える	12歳以上～
2	マイ・インターン	相手の話を聴く	12歳以上～
3	セトウツミ	会話のキャッチボール	12歳以上～
4	ブレイクファスト・クラブ	相手を決めつけない	高校生～
5	タイタンズを忘れない	対立する相手と話す	12歳以上～
6	42 世界を変えた男	不公平でも自分を保つ	12歳以上～
7～8	リンカーン／アイ・フィール・プリティ！	説得する・自分を肯定する	中～高

8 参考資料（主な出典）

42 世界を変えた男 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia 「42 ～世界を変えた男～」 https://ja.wikipedia.org/wiki/42_～世界を変えた男～

42 世界を変えた男 作品情報（MOVIE WALKER PRESS） <https://press.mviewwalker.jp/mv52491/>

作品：映画『42 世界を変えた男』（2013年、監督ブライアン・ヘルゲランド）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。